

平成30年4月 議会報告会での要望及び意見に対する回答

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
1	古江	海洋深層水事業の検証、見直しが必要ではないか。 海洋深層水事業に係る市の取り組みが見えてこない。	海洋深層水事業につきましては、アクアステーションの指定管理者、深層水利活用事業者等と事業について検討する場を設け、様々な意見をいただき事業の推進を図ってまいりたいと考えております。 また、現在、年4回広報にアクアステーション通信を織り込み、活動についてお知らせしておりますが、広報についてもその内容を検討してまいります。	商工観光課
2	古江	尾鷲総合病院の医師不足は続いているのか。 医師養成、確保に市のバックアップを。	現在、病院の診療体制を維持するため、常勤医師に加え三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院及び紀北医師会などから応援医師の派遣をいただき対応しているところです。 引き続き、研修医の受入れや医師を確保し診療体制を維持していくため、県や市の行政部局としっかり連携を図っていきます。	総合病院
3	古江	ふれあいバスの賀田駅、三木里駅との連絡が不便。 買い物弱者対策を。	平成28年度に行いました公共交通に係る住民懇談会において、各地区でもっとも多かった要望の中に、尾鷲駅発10:02特急南紀名古屋行への接続があり、これに対応するダイヤとなっております。 ご指摘の「賀田駅、三木里駅との連絡」についてですが、市内には「尾鷲駅」「大曾根浦」「九鬼」「三木里」「賀田」の5つの駅があり、人口が減少し、乗客が減少している現状において、1路線1車両で運行している当バスでは、JR本線への接続は、一定の限界がありますことをご理解ください。	政策調整課
4	三木里	三木里には避難所がない。学校統合後の三木里小の一部を耐震化して校舎活用を。 耐震化されていない学校施設の活用事例もあるため、柔軟な対応を。	学校統合に伴う三木里小学校の利活用については、地域の皆さんとも十分協議を行いながら、施設の転用の有無、活用に伴う費用対効果、安全性や地理的条件等を踏まえた上で、新たな事業展開の可能性について検討してまいります。	教育総務課 (防災危機管理室)

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
5	三木里	三木里小前の道を防災道路にする計画を進めているため、行政手続き等がスムーズに進むように市の方も協力を。手続き、進め方(地籍調査、農地転用等を含め)の指南を。	<p>●建設課 これまでもご相談をいただいております本案件に関しましては、本市といたしましても可能な範囲で協力を行い、関係各課と連携しながら速やかに対応するとともに、地籍調査義業に関しましては、現在実施している他地区の進捗状況を鑑み、事業化に関して調整を図ります。</p> <p>●水産農林課 現在、区のほうで進めていただいております小学校前の防災道路についてですが、水産農林課としましては、農地転用等における相談、行政手続き等につきましては、以前から随時協力させていただいており、防災道路の整備に向けて進めていただいていると思います。</p>	建設課 水産農林課
6	三木里	三重国体OWS競技開催に際し、三木里には飲食する場所がない。仮設でも良いので整備を。トイレ、ごみ対策を。観客にライブ映像を。	<p>三木里海水浴場を会場とした「オープンウォータースイミング三重オープン」において、昨年は尾鷲観光物産協会に協力をいただき、飲食ブースを若干数出店いたしました。今後も同協会をはじめ、地元三木里区とも連携しながら、さらに充実していければと考えております。ライブ映像につきましては、ドローンの活用など、現在様々な方法、可能性を検討しているところであります。</p> <p>今後は、国体準備委員会も設立するなど、各方面からのご意見もいただきながら、より良い大会にするべく、各種検討をさせていただきます。</p>	生涯学習課
7	三木里	干潮時に船が出せないの、八十川河口のへドロの浚渫を。	八十川河口及び三木里港における浚渫については、三木里地区よりご要望を頂いており、管理者である三重県へ、早急に対策を講じられるよう意見を添えて進達をさせていただきました。	建設課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
8	三木里	ふれあいバスの尾鷲発の便が1時間遅くなり、三木浦への便もなくなり不便。	ふれあいバスハラソ線尾鷲駅発13:00の便についてのご指摘ですが、平成28年度に行いました公共交通に係る住民懇談会において、ご意見の多かった事項として、「尾鷲総合病院での会計時間の確保」や、「市街地での買い物の時間の確保」があり、当時、天満堤防11:53発の便を、1時間程度遅くした経緯があります。 また、三木浦地区と三木里地区との接続についてですが、これも同じ懇談会において、尾鷲駅発10:02特急南紀名古屋行への接続の要望が多かったことから、朝の通院・通学の時間帯を考慮し、やむを得ず接続を断念した経緯があります。 しかしながら、同様のご指摘を複数いただいておりますので、優先順位を考慮しながら、次期のダイヤ改正において、検討していきたいと考えております。	政策調整課
9	三木里	ふれあいバスのJRへの連絡を。	平成28年度に行いました公共交通に係る住民懇談会において、各地区でもっとも多かった要望の中に、尾鷲駅発10:02特急南紀名古屋行への接続があり、これに対応するダイヤとなっております。 ご指摘の「JRへの連絡」についてですが、市内には「尾鷲駅」「大曾根浦」「九鬼」「三木里」「賀田」の5つの駅があり、人口が減少し、乗客が減少している現状において、1路線1車両で運行している当バスでは、JR線への接続は、一定の限界がありますことをご理解ください。	政策調整課
10	三木里	7時、12時、17時の防災無線から流れる音楽の変更を。	防災無線から流れる音楽につきましては、平成14年2月から長年にわたり、7時「歓喜の歌」、12時「尾鷲節」、17時「古道の旅人」がに使用され、市民の皆さまに浸透し定着していることから、現在のところ変更する予定はございませんが、そういった声(変更を求める)が多数あるようでしたら将来的に検討させていただきます。	政策調整課
11	三木里	警報発令時にワンセグから大きな音声で知らせるような工夫を。	警報発令時には、防災行政無線屋外スピーカーでのお知らせと併せて、ワンセグからも任意で設定している音量でお知らせできるよう整備しています。緊急地震速報や津波警報などの対処に時間的猶予のない緊急事態の情報は、防災行政無線と併せてワンセグからも最大音量で自動起動放送されることとしております。防災情報等の住民の皆様への伝達は、最たる減災対策であり、適切に運用していきたいと考えております。	防災危機管理課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
12	三木浦	ふれあいバス八鬼山線が小脇で、ハラソ線は名柄で折り返してしまい、この間距離にして1kmを歩かなければいけない。当時の市長公室から通学バスを活用する提案があったが導入されず、三木里の郵便局、金融機関、診療所などへ行くのに不便になった。通学バスを利用できなかった原因もきっちり説明されていない事に腹を立てている。原因の説明をしてほしい。	三木浦地区と三木里地区との接続についてですが、平成28年度に行いました公共交通に係る住民懇談会において、尾鷲駅発10:02特急南紀名古屋行への接続の要望が多かったことから、朝の通院・通学の時間帯を考慮し、やむを得ず接続を断念した経緯があります。しかしながら、同様のご指摘を複数いただいておりますので、優先順位を考慮しながら、次期のダイヤ改正において、検討していきたいと考えております。スクールバスの利活用については、教育委員会と協議を行っておりますが、予算面や安全性など諸課題が多く、現在検討を進めているところであります。ただし、細やかな移動支援については、1路線1車両で運行している当バスでは、一定の限界があることから、地域支援員制度の活用なども含め、買い物支援や通院支援への取り組みを全庁的に検討してまいります。	政策調整課
13	三木浦	尾鷲市地域防災力向上補助金について、本年度から同額ではあるが全額ではなく2/3の補助率に改正され、残り3万円を自己負担するよう説明された。小さな自主防災会では自己負担できない。	尾鷲市地域防災力向上補助金については、昨年度まで、各自主防災組織の負担がない形で補助金を活用していただきましたが、平成29年度中に「尾鷲市補助金等交付基準」及び「尾鷲市補助金等の見直し方針」に基づき、補助金の見直しが行われ、補助金の上限額はこれまでと同じ7万円ですが、補助率が事業費に対する2/3となり、必ず1/3以上の負担が生じる形となりました。この点につきましては、みなさまにご理解いただきたく、また、この補助金を活用して、来たるべき災害に備えて頂きますようお願いいたします。	防災危機管理課
14	三木浦	火災跡の家屋が何年も放置されている。何年も前のものが放つたらかしになっている。どうにかならないのか。	本市に寄せられている空き家に対する苦情・相談件数は59件で5件が解決済となっています。すべてが解決していませんが、引き続き所有者(管理者)に早急な改善をお願いしていきます。進捗が遅く誠に恐縮ですが、空き家の撤去や修繕にかかる多額の費用については所有者(管理者)の負担となっているため、解決には時間を要しています。	市民サービス課
15	三木浦	三木小学校が賀田小学校に統合される事になったが、幼稚園は残される事になった。幼稚園を残すなら耐震化が必要。また、三木小学校の校舎は地区の避難場所となっている為、運営については町民が行うが、避難施設として建物の耐震をしてもらいたい。	三木小学校の学校統合に伴い、三木幼稚園も賀田小学校に移設することになります。三木小学校は、現在、津波・土砂災害等によって短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う収容避難所として指定しておりますが、仮に、校舎が倒壊等による被害を受けた場合には、グラウンドへの仮設テント等による対応も必要であると考えております。	教育総務課 (防災危機管理室)

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
16	三木浦	尾鷲に行くと、帰りのバスまで4時間余り待つ事になる。どうにかしてほしい。	公共交通体系を維持継続するには、地域の実情や事業の採算性を勘案し、より多くの人々が利用しやすい、効率的で効果的な運行体系の構築が重要です。ご意見のありました待ち時間の解消につきましては、現在の1路線1車両による運行では不可能であり、バスの台数を増やすことでしか対応ができません。運行本数を増やすことは、利用者数の試算を充分精査する必要があり、現在の利用状況では、運行本数を増加することは難しいものと考えております。	政策調整課
17	老人クラブ 連合会	火力発電所の跡地利用について、例えば県下最大の海釣り公園をやってそれに伴う食の拠点づくりを行ったり、火力のグラウンドや庭園の開放をお願いしたい。	尾鷲三田火力発電所におきましては、本年度中に1,3号機の廃止を決定したとの報告がありましたが、それと併せ、今後の用地の活用について、中部電力㈱から、「エネルギー地産地消を中心とした地域活性化モデル」を本市と共同で検討したいと、提案をいただいている状況であります。このことを踏まえ、本市においては、中部電力と共に土地利用の検討を進めたいと考えているところでありますが、今後は、本市と中部電力とだけでなく、関係機関・団体とともに、ご提案いただいている海釣り公園といったことを含め、有効活用についてあらゆる検討を重ね、地域活性化に繋げたいと考えております。	政策調整課
18	老人クラブ 連合会	総合病院を広域で運営することはできないのか。	普通地方公共団体は、その事務の一部を共同処理するため、その協議により規約を定め、知事の許可を得て、一部事務組合を設けることができることになっており、全国では、79組合(平成28年度実績)が設置され、病院運営が行われているところですが、そうした中、尾鷲総合病院においては、現在、平成29年度実績で、入院患者においては45.6%、外来においては、41.5%が市外からの患者になっていることから、地域医療の確保に係る基礎自治体の役割を踏まえ、一部事務組合など広域運営について今後の課題の一つとして検討していきたいと考えています。	総合病院

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
19	老人クラブ 連合会	ふれあいバスのダイヤ改正について、どのように決められているか市民にはわからない。運行計画はどのように決めたのか、詳しい説明をしてもらいたい。	<p>ふれあいバスのダイヤ改正にあたっては、住民懇談会、アンケート調査によるニーズの把握や、尾鷲市地域公共交通活性化協議会、市議会、交通事業者との協議等での議論を経て、意見の多かった内容を加味し、ダイヤの検討を行っております。</p> <p>ただし、このバスの運行の最大の目的は、幹線系統バスへの接続、通院、通学、通勤であるため、これをベースとし、その他のご意見につきましては、ベースを大きく逸脱することがないように留意しつつ、最大限にご意見を反映できればと考えております。</p> <p>手続的には、住民代表や有識者で構成される「尾鷲市地域公共交通活性化協議会」にて改正ダイヤの内容にご同意いただき、その同意書をもって国土交通省に申請し、改正が正式に認められる運びとなっています。</p>	政策調整課
20	老人クラブ 連合会	須賀利大池を開発(大池までの道整備など)をすれば、観光客が増えていくのではないかと何度か提案しているが、はっきりとした返答がもらえていない。	<p>須賀利大池及び小池は、国立公園や国の天然記念物であるなど、その価値は自然・文化・歴史・学術にいたるまで多様であり、なおかつそれぞれが高い価値をもつものと考えますが、その活用にあたっては、その価値を将来に守り伝えられる持続可能な活用方法が求められます。</p> <p>そんななかでは、誰もが現地まで楽にアクセスできる道の整備が理想的ですが、現実には、周囲は典型的なリアス海岸であるため急峻な地形に囲まれており、そのような道路整備には大規模な開発が必要となります。しかし、こうした行為は大池やその周辺の保護の観点から容認されるものではありません。また、陸路を歩いて現地に至る道についても確認しておりますが、こちらも急峻な斜面の山中を数時間にわたって上り下りする山道であることから、一般向けではございません。</p> <p>このようなことから、大池の活用にあたっては、消費型観光資源ととらえるよりも、自然環境や歴史文化の保全を中心としたエコツーリズムや、地質や地球科学的な現象に興味や関心を持ち、知識や理解を深めていくジオツーリズムの考えに基づいた地域資源としての活用について検討してまいります。</p>	生涯学習課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
21	老人クラブ 連合会	須賀利小学校の校舎を活用して、須賀利コミュニティーセンターに展示している須賀利大池の展示物を須賀利小学校で大々的に展示できないか。	現在、須賀利小学校の校舎については、施設および設備の点検などは行っておらず、対処済みではあるものの、かつては一部、壁面より剥離片が落下する事例もあったことから、玄関前の通行も禁止しているなど、展示施設としての活用は非常に困難であります。 しかし、今年度、生涯学習課郷土室において、須賀利大池に関する企画展示を予定しており、ご意見をいただきました須賀利コミュニティーセンターに展示の大池周辺からの出土物についても合わせて展示したいと考えております。このように中央公民館展示コーナーにおいて、より多くの皆さんにも、ご覧いただけるような企画展の実施を検討してまいります。	生涯学習課
22	老人クラブ 連合会	大曾根公園の「世界の椿園」を訪れた市外からの訪問者が、残念な感想を持っている。もう少し整備に力を入れて自慢できる公園にしてもらいたい。	「世界の椿園」に関しましては、季節を問わず訪れていただいても安全で安心して周遊していただけるように、遊歩道の整備や椿の適正な管理を実施しており、本市内外から一定の来訪者をお迎えしております。 ご意見をいただいたとおり、さらに多くの方に訪れていただくために、訪れてみたいと感じていただける魅力の創出や、インターネットなどの媒体での発信を今後も実施してまいりたいと考えております。	建設課
23	老人クラブ 連合会	尾鷲神社の後ろの保育園が避難場所になっているが、そこへ逃げる為に通る北川橋の耐震調査ができていないと聞いている。耐震だけでなく、耐震調査すらできていないのはなぜか。	市の管理する橋梁について、現在、法律に基づく点検を進めており、その点検結果も踏まえながら、長寿命化計画を策定し、必要な修繕を順次進めているところです。耐震化については、今後、避難計画とも整合を図りながら整備方針を検討し、優先順位の高いものから耐震調査や耐震化に取り組んでいきたいと考えています。	建設課
24	中央公	中井町に危険な空き家があり、3年前に担当課に伝えたが対応していない。行政代執行など、空き家対策を早く進めてほしい。	本市に寄せられている空き家に対する苦情・相談件数は59件で5件が解決済となっています。すべてが解決していませんが、引き続き所有者(管理者)に早急な改善をお願いしていきます。進捗が遅く誠に恐縮ですが、空き家の撤去や修繕にかかる多額の費用については所有者(管理者)の負担となっているため、解決には時間を要しています。また、代執行などによる家屋の取り壊しは、個々の事情により簡単には行えないと考えておりますので、ご承知おきください。	市民サービス課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
25	中央公	市庁舎を早く耐震化すべき。	本庁舎の耐震化につきましては、昨年度に耐震診断を実施しましたところ、構造耐震指標(Is値)は基準を下回る結果となりましたが、コンクリート強度は基準強度を上回っており、現庁舎の耐震補強は技術的に可能となったことから、建替え、移転に加え、耐震補強を含めた庁舎整備の方針を本年度上半期までにお示したいと考えております。	総務課
26	中央公	市長の公約だったリニアックは断念したのか。財源不足を情報発信し、企業や市民にリニアックに係る寄付を募っては。	リニアックの整備については、更新費用が約3億4千万円必要であり、この全額病院事業債を財源にして更新する計画をしています。しかし、現時点では、この事業債の償還に係る財源となる病院事業会計内の内部留保資金や一般会計からの繰入金確保の見通しが立っていない状況です。今後も引き続き、市全体の財政状況や病院の内部留保資金の状況を踏まえて、リニアックの更新時期について検討してまいります。	総合病院
27	中央公	医業収益、患者数の減少について検証すべき。	医業収益や患者数の状況も含めた、尾鷲総合病院新改革プランの取組に対する点検・評価を行うため、平成30年度に「尾鷲総合病院運営検討委員会(仮称)」を設置する予定としております。	総合病院
28	中央公	総合病院の広域経営は不可能なのか。	普通地方公共団体は、その事務の一部を共同処理するため、その協議により規約を定め、知事の許可を得て、一部事務組合を設けることができることになっており、全国では、79組合(平成28年度実績)が設置され、病院運営が行われているところ。そうした中、尾鷲総合病院においては、現在、平成29年度実績で、入院患者においては45.6%、外来においては、41.5%が市外からの患者になっていることから、地域医療の確保に係る基礎自治体の役割を踏まえ、一部事務組合など広域運営について今後の課題の一つとして検討していきたいと考えています。	総合病院

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
29	中央公	市外から総合病院に患者を呼び込む方策を。	平成29年度に尾鷲総合病院を受診された患者さんの割合は、外来で市内の方が58.5%、市外の方が41.5%、また、入院では市内の方が54.4%、市外の方が45.6%となっております。 そうした中で、現在、入院患者において、回復期状態の患者が複数、県外や市外に流出している状況があることから、今後、尾鷲総合病院において、回復期機能の充実を図り、患者数の確保に努めていきたいと考えています。	総合病院
30	中央公	矢ノ川上流域への土砂の搬入計画について阻止してほしい。	●水道部 現在、尾鷲市水道水源保護審議会にて審議中ですので、審議結果を踏まえて最終判断をいたします。 ●建設課 必要に応じて関係各課と連携しながら対応してまいります。	水道部 建設課
31	中央公	火力発電所跡地に自衛隊駐屯地を誘致する等の施策を。	尾鷲三田火力発電所におきましては、本年度中に1,3号機の廃止を決定したとの報告がありましたが、それと併せ、今後の用地の活用について、中部電力㈱から、「エネルギー地産地消を中心とした地域活性化モデル」を本市と共同で検討したいと、提案をいただいている状況であります。このことを踏まえ、本市においては、中部電力と共に土地利用の検討を進めたいと考えているところでありますが、今後は、本市と中部電力とだけでなく、関係機関・団体とともに、有効活用について、ご提案の自衛隊駐屯地の誘致といったことを含め、あらゆる検討を重ね、地域活性化に繋げたいと考えております。	政策調整課
32	中央公	輪内中は全校生徒15人で危機的な状況だが、質の高い教育を実践していただいております、学力も体力も全国的にレベルが高い。今後、学校の統廃合を考える前に校区外から生徒を受け入れる等の方法を考えてほしい。	輪内地区の統合される予定の小学校では、外国語教育に力を入れていく計画ですが、輪内中学校との小中連携を深め、9年間を見通した外国語教育を展開し、特色ある教育活動を培っていきたくと考えております。また、小規模特認校制度や農漁村留学など創意工夫を行い、校区外からの生徒の受け入れについて検討してまいります。	教育総務課